

2019年7-9月期決算は前年対比で減益ながら、明るい材料も。

前年対比で減益

- TOPIX 指数に採用されている企業の2019年7-9月期決算は、純利益が前年同期比で約8%の減益となっています*。
- 決算前に懸念されていたように、米中貿易摩擦によるグローバル経済の減速や円高がマイナス要因となりました。
- 今後の業績見通しについては、年内は前年対比で小幅な減益が想定されていますが、2020年には増益への回復が予想されています(図1)。

*出所：ファクトセット(10月末時点)

非製造業は好調、製造業は低迷

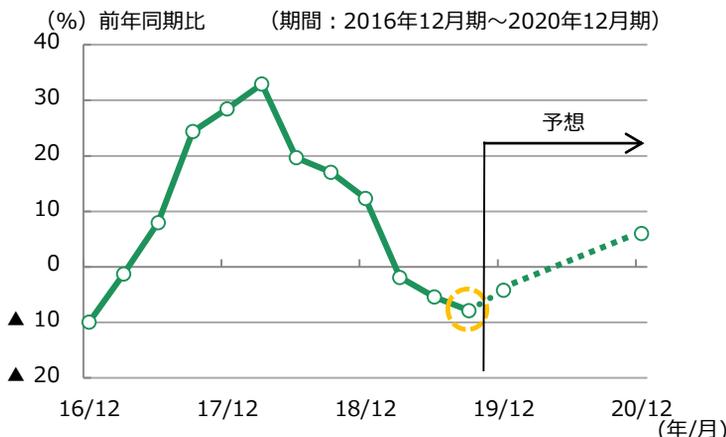
- 業種別では、増益率ランキング上位5業種のうち4業種が非製造業となっており、内需関連企業が多い非製造業は前四半期に続き好調となりました。
- 資源関連の「石油・石炭製品」や海外比率が高い「輸送用機器」などの製造業は世界的な景気減速の影響を受けて業績が低迷しました。

新たなテクノロジーへの期待は明るい材料

- 明るい材料の1つとして、景気敏感セクターとされる「電気機器」は株式市場全体と比較しても好調に推移しています。また、米国では半導体関連株が年初来で大幅に上昇しています(図2)。
- こうした市場の動きは、来年から日本でも本格稼働する5G(第5世代移動通信システム)の他、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)などの新たなテクノロジーへの期待を反映していると考えられ、株式市場のプラス材料として注目されています。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。

(図1)国内企業の増益率推移



※国内企業の増益率：TOPIX指数に採用されている企業の四半期純利益成長率
出所：ファクトセットのデータ(10月末時点)を基に明治安田アセットマネジメント作成

業種別の増益率(前年同期比)

○上位5業種

業種名	増益率
海運業	+42.0%
鉱業	+37.8%
電気・ガス業	+13.1%
パルプ・紙	+11.0%
倉庫・運輸関連業	+9.1%

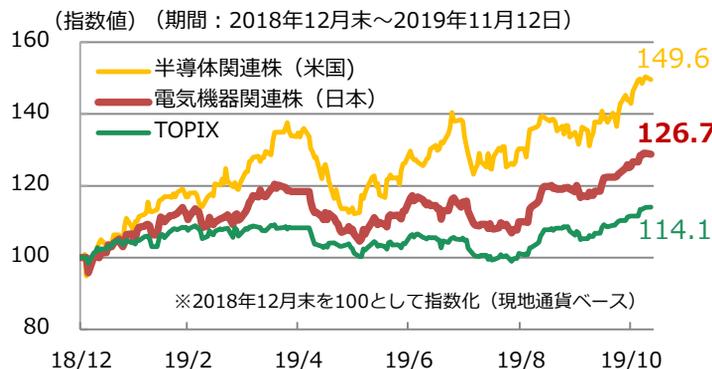
●下位5業種

業種名	増益率
石油・石炭製品	▲63.9%
証券、商品先物取引業	▲43.2%
非鉄金属	▲36.6%
輸送用機器	▲31.5%
金属製品	▲31.0%

※網掛けの業種は製造業

出所：ファクトセットのデータ(10月末時点)を基に明治安田アセットマネジメント作成

(図2)日米株式市場の動向



※2018年12月末を100として指数化(現地通貨ベース)
※半導体関連株(米国)：フィラデルフィア半導体指数(米ドルベース) (年/月)
電気機器関連株(日本)：東証電気機器株価指数
TOPIX：東証株価指数

出所：ファクトセットのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

国内企業業績の動向と株式市場

作成日 2019年11月14日

＜ご参考＞主要な個別企業の純利益（単位：億円）

企業名（証券コード）	業種	2018年4-9月期	2019年4-9月期	前年比
トヨタ自動車(7203)	輸送用機器	12,424	12,750	+2.6%
ソフトバンクグループ(9984)	情報・通信	8,401	4,216	▲49.8%
ソニー(6758)	電気機器	3,994	3,400	▲14.9%
キーエンス(6861)	電気機器	1,137	986	▲13.3%
武田薬品工業(4502)	医薬品	1,267	332	▲73.8%
日産自動車(7201)	輸送用機器	2,463	654	▲73.5%
NTTドコモ(9437)	情報・通信	4,071	3,724	▲8.5%

トヨタ自動車（7203）

- 2019年上半期（4-9月期）決算は、純利益が1兆2750億円となり、前年同期比+2.6%と小幅な増益となりました。継続的な「カイゼン」によりコスト削減を実現する中、北米など世界の主要地域で販売を伸ばしました。
- 米中貿易摩擦の影響が懸念された中で増益を達成する良好な決算となったことから、決算発表後の株価は上昇基調となりました。
- 自動運転の分野では後れをとっているとみられており、次世代自動車におけるライバル社との激しい競争において優位に立てるかどうかが同社の注目点です。

株価推移

(円) (期間：2019年4月末～2019年11月12日)



出所：ファクトセットのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

ソフトバンクグループ（9984）

- 2019年上半期（4-9月期）決算は、純利益が前年同期比で▲49.8%の大幅な減益となりました。同社が運営する「ソフトバンク・ビジョン・ファンド」が投資しているコワーキングスペース運営会社の多額の評価損がマイナス要因となりました。
- ただし、同ファンドにおける投資先の評価損については事前に報じられた想定内のものがあったため、減益決算の発表を受けても株価は小幅に反発しました。

株価推移

(円) (期間：2019年4月末～2019年11月12日)



出所：ファクトセットのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

※上記の個別銘柄への言及はあくまでも例示をもって理解を深めていただくためのものであり、個別銘柄の推奨または投資勧誘を目的としたものではありません。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。